

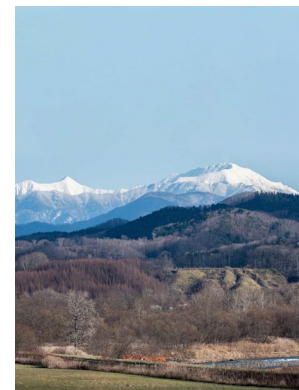


1. 平取町と日高山脈襟裳十勝国立公園

平取町は、北海道日高地方の西端に位置し、豊かな自然とアイヌ文化の拠点の1つとして広く知られている。

日高山脈の最高峰「幌尻(ポロシリ)岳」を含む原生的な森林が残されており、沙流川流域の二風谷コタンとイオル(伝統的生活空間)の森は、アイヌ文化を学び、体験する継承の場となっている。

平取町は、令和4年12月にゼロカーボンシティを表明。



日高山脈の最高峰
「幌尻(ポロシリ)岳」

2. ゼロカーボンパークに向けた平取町と地域の取組

①登山における環境負荷の軽減

幌尻岳は本国立公園の最高峰であり、難易度は非常に高いものの、日本百名山に含まれており、山頂からは日高山脈の山並みを一望できる人気の高い山である。

登山口に至る林道では、登山シーズンに多くの車両が通行することによる環境負荷の軽減を図るため、一般車両の乗り入れを規制し、町がシャトルバスを運行している。登山者に対しては、ゴミの持ち帰りの徹底や携帯トイレの使用を呼びかけるとともに、携帯トイレブースと使用済み携帯トイレの廃棄場所を設置している。

拠点となる幌尻山荘では、水力発電とソーラー発電により電力を確保し、バイオトイレを稼働させている。



糠平・幌尻線内シャトルバス



幌尻山荘の給電施設



2. ゼロカーボンパークに向けた平取町と地域の取組

②アイヌ文化伝承の森

平取町、北海道森林管理局及び平取アイヌ協会の三者で協定を締結。アイヌ文化の総合的な伝承と生活基盤を構築するイオル(伝統的生活空間)を再生し、アイヌ文化の象徴としてのコタンコロカムイ(シマフクロウ)の生息と、オヒョウなどアイヌ文化における有用自然素材の継続的な確保を可能とするため、階層構造の複雑な森林となるよう育成を行っている。

伐採時には、切る木を厳選し、1本ずつ丁寧に伐採するとともに、倒した木は山の土壌を荒らすことなく運び出すことができる「馬搬」を用いるなど、森を傷つけない手法を取り入れている。



伐採木の馬搬

③再生可能エネルギーの活用

平取町は平成27年に「平取町バイオマス産業都市構想」を作成し、「バイオマス産業都市」に選定されている。公共施設への率先導入計画の一環として「平取町木質バイオマスセンター」を設置し、電力と熱供給が行われている。



平取町木質バイオマスセンター

3. 環境省における対応

ゼロカーボンシティ支援に活用しているエネルギー対策特別会計予算及び自然公園等事業費等の既存予算を活用して支援する他、北海道地方環境事務所が連携をとりながら伴走支援を行い、ゼロカーボンパークの取組を後押し。